

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和5年3月1日（水）

2 確認箇所

既設アウターライズ津波防潮堤（4号機東側、4号機南側）

3 確認項目

日本海溝津波防潮堤の設置状況

4 確認結果の概要

令和2年4月、内閣府「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会」が日本海溝津波の発生が切迫していると評価したことを踏まえ、東京電力では、T.P. 11.8m規模と想定される日本海溝津波に対応する、日本海溝津波防潮堤の設置を進めている。

本日は、日本海溝津波防潮堤工事の一部として、4号機東側から南側において、既設アウターライズ津波防潮堤^{※1}に対して行われている防潮堤本体工事の状況を確認した。（前回確認：[令和4年11月10日](#)）（図1）

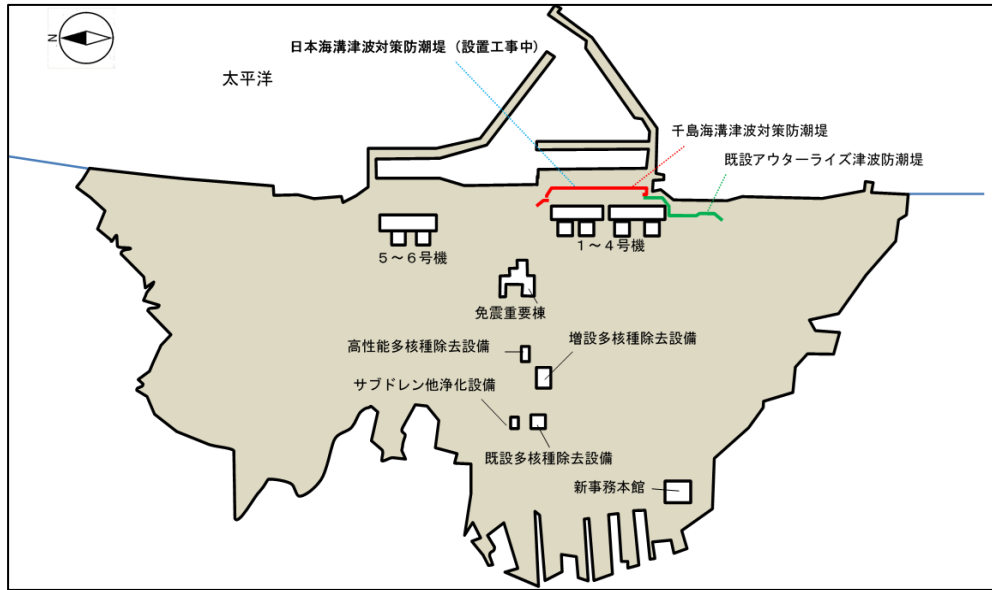
- ・フィルターユニット^{※2}から海側にコンクリート壁(テールアルメ工法)が設置され、フィルターユニットとコンクリート壁の間にアッシュクリート^{※3}が打設されていた。（写真1）
- ・アウターライズ津波防潮堤の陸側にフラップゲート^{※4}が設置されていた。（写真2）
- ・東京電力では、日本海溝津波防潮堤の本体を既設アウターライズ津波防潮堤の上部に設置するとしており、令和5年度中に完成させるとしている。（写真3）

※1 アウターライズ津波防潮堤：東日本大震災の震源域より東側の「アウターライズ」と呼ばれる海底を震源とする地震で発生すると想定される津波がアウターライズ津波であり、福島第一原子力発電所ではT.P. 4.1mの高さが想定されている。アウターライズ津波防潮堤は仮設防潮堤として2011年6月に設置された。

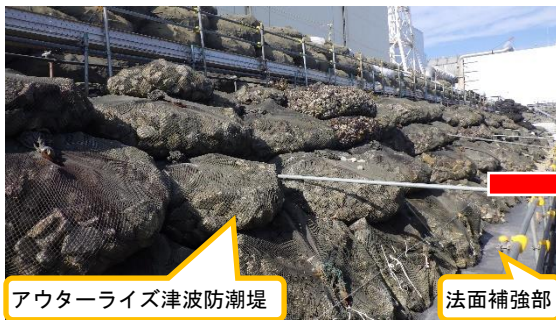
※2 フィルターユニット：網の袋に石やコンクリート塊などを詰めたものであり、河川護岸や海岸の根固め工、橋脚の洗掘防止等に使われる。

※3 アッシュクリート：石炭灰とセメントを混合させた人工地盤材料。

※4 フラップゲート：防潮堤を越流して堤内が海水で浸水した場合、海水を海に排水するためのもの。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



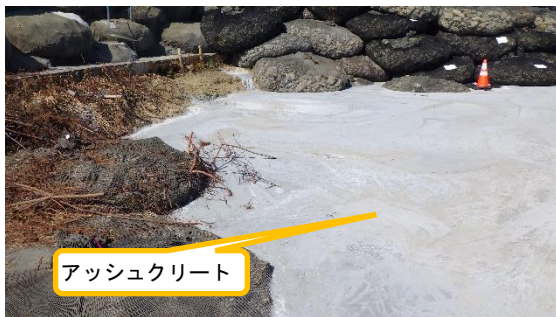
(写真1-1)

4号機南側における日本海溝津波防潮堤（アウターライズ津波防潮堤の法面補強）の状況（南東側から令和4年11月10日撮影）



(写真1-2)

4号機南側における日本海溝津波防潮堤の防潮堤本体工事の状況（南東側から撮影）



(写真1-3)

4号機南側における日本海溝津波防潮堤の防潮堤本体工事の状況（コンクリート壁上部から撮影）



(写真 1 - 4)

4号機東側における日本海溝津波防潮堤の防潮堤本体工事の状況（南側から撮影）



(写真 2)

4号機南側におけるフラップゲートの状況



(写真 3 - 1)

4号機南側におけるアウターライズ津波防潮堤上部の状況（南側から令和4年11月10日撮影）



(写真 3 - 2)

4号機南側におけるアウターライズ津波防潮堤上部の状況（南側から撮影。前回から顕著な変化なし。）

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。